

2018年度 活動報告 CJP 授業：総合日本語5

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

現代日本プログラム日本語専攻コースで学ぶ中級後半から上級前半の学生を対象に、週に3コマ（90分）実施した。教科書は『「大学生」になるための日本語①』（ひつじ書房）のうち、1課から9課までを扱った。テキスト本文の読解、表現文型について、クラス内でのやり取りを軸として学習を進めた。また、映像教材や新聞記事なども積極的に紹介することで、理解した内容について自分の言葉で説明できるようになるための活動を実施し、中級後半レベルの日本語運用力の育成を図った。教科書は生教材をもとにしたものであったが、語彙については予習シートを配布することで、自律的に学習を進めることとした。

2. 授業内容

各課の学習は、以下の順序で一課あたり3コマから4コマで進めた。①チャレンジ読解、②語彙の使い方の確認、③本文速読、④表現文型の練習、⑤本文読解、⑥まとめの活動、である。各学習活動には、協働学習の考え方と方法論を取り入れ、ペア活動を中心に進めた。表現文型については、意味がわかるというだけではなく、実際に適切に運用できるようになることを目標とした。前回からの変更点として、「チャレンジ読解」を取り入れたことがある。各課の冒頭で、自分で読み内容を簡単にまとめるという課題を出し、理解度について自己評価してクラスに来てもらうという流れを作った。それにより、自律的な読み手としての意識化を図ると同時に、活動において、トップダウンでテキスト理解を進めることを意図した。

3. 成果と今後の課題

本文について自分の言葉で説明したり、関連するテーマでミニレポートを書いたりするなど、アウトプットを重視したことから、口頭でのやり取りについては、いずれの学生も日本語力の向上を実感しているようであり、授業評価も概ね好評であった。新たに実施した「チャレンジ読解」についても、本文を簡潔にまとめることができなかつた学生が次第に短く説明できるようになるなど、一定の成果が見られた。また授業担当側としても、学生の理解度を把握したうえで、クラスに入るため、進め方を工夫できるなどの利点があった。一方で、学生からの意見として、クラスには自分の考えを話すのが苦手な人もいるため、話し合いについて工夫が欲しかったという声もあり、学期の早い段階でより丁寧に方法についての説明を行う必要性も示唆された。